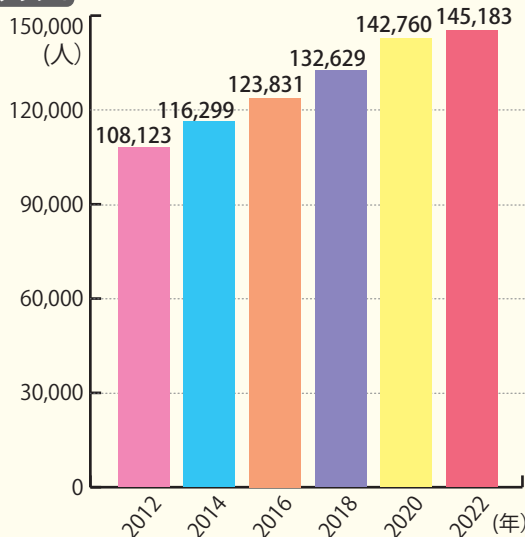


デンタルスタッフ・ミライ・プロジェクト ニュース vol.102

年齢階級別にみた就業歯科衛生士数の年次推移

グラフ1



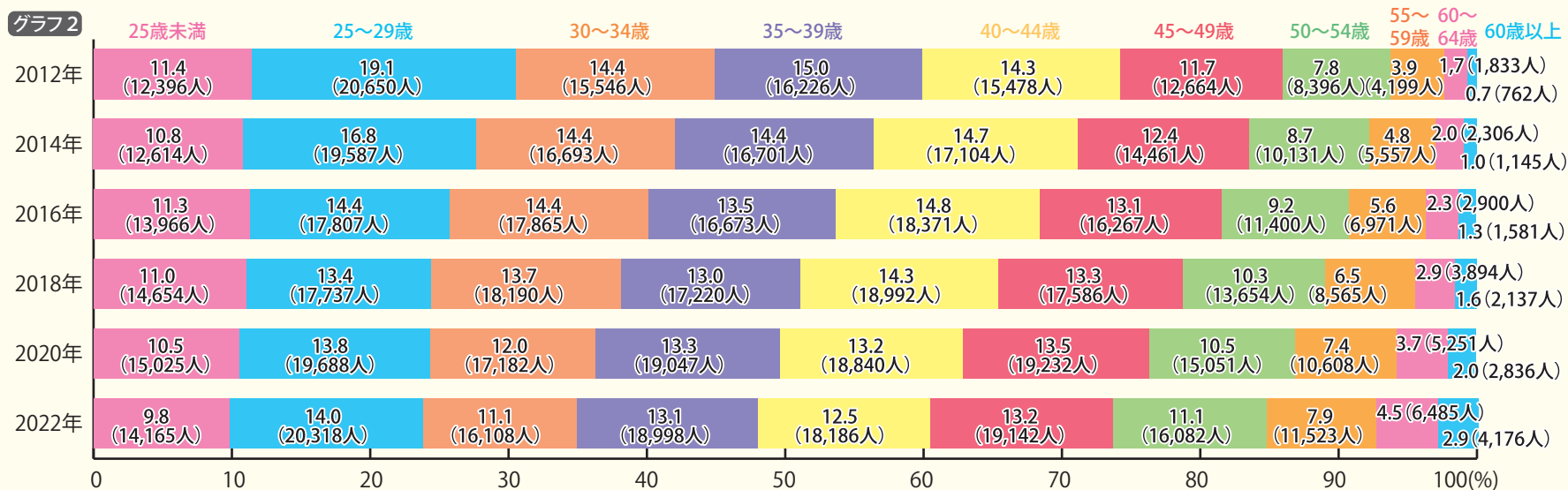
2022 年末現在の就業歯科衛生士数は 145,183 人で、2020 年末時点よりも 2,423 人増え、10 年前の 2012 年の 108,123 人より 37,060 人増加しています。(グラフ1)

年齢階級別に構成割合みると、2022 年は「25～29 歳」が 14.0% (20,318 人) と最も多いが、2012 年の「25～29 歳」の 19.1% (20,650 人) より 5.1 ポイント減少しています。55 歳以上の就業人口は年々増加傾向にあり、2012 年では 6,794 人だったが、2022 年では 22,184 人と 3 倍以上になっています。(グラフ2)

参照:厚生労働省「平成4年～令和4年 衛生行政報告例の概況」



グラフ2



DH Pro.セミナー講師
谷口裕子先生による
コラムのコーナー



患者さんに万全の治療を
行うために

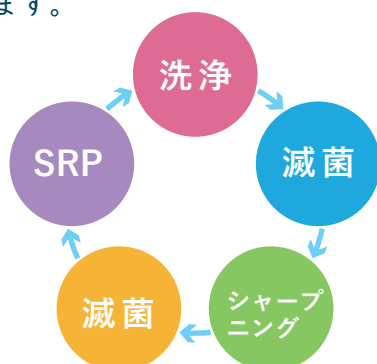
Question

インスツルメントの管理はどうされていますか？

Answer

SRPで使用したスケーラーは

①洗浄 ⇨ ②滅菌 ⇨ ③シャープニング
⇨ ④滅菌 ⇨ ⑤SRP のサイクルで管理していきます。



・一度でもスケーラーを使用したらエッジがあるかないかの確認を行い

・エッジがなければシャープニングします。

スケーラーの本数や使用頻度にもよりますが、歯科衛生士全員で共有していると、「使いたい時に使いたいスケーラーが使えない」という場面もあると思います。(使いたいスケーラーとは、患者さんの歯肉のフェノタイプや骨欠損状態を確認し、それに合ったキュレットを適切に選択する)

タイミングによっては、患者さんに万全を尽くした治療が行えず、歯周治療の結果に差が出てくるかもしれません。

また、自分の道具を大切にすることは、歯科衛生士業務の目的について考えたり、治療計画を練る時間も増えSRPの上達にも繋がります。

